

会報 No.316



キャリア・コンサルタント

2021年（令和3年）6月10日

[発行] キャリア・コンサルタント協同組合

発行責任者：渡邊 健三

〒102-0052 東京都千代田区神田小川町 1-8-3
小川町北ビル 8F

Tel: 03-3256-4167 (代表)

直通電話：営業本部 03-6821-7544
：外国人材受入事業部

03-6826-7789

Fax: 03-3256-4168

E-mail : [会報編集部] henshu@ccco.jp

[事務局] jimukyoku@ccco.jp

[営業本部] eigyo@ccco.jp

URL : <http://www.occ.or.jp>

<http://www.ccco.jp>

編集長：田中 努

編集者：平松靖弘 影山和子 大野長壽

中野 忠 福田秀樹

1. 次なる CCK へ

理事長 渡邊 健三

(特別寄稿第9回)

2. コロナ情報

藤田医科大学 名誉教授 船曳 孝彦

3. 素人が思う感染症対策への疑問

組合員 中野 忠

4. VUCA (ブーカ) とは何か。

—VUCA 時代を生き抜くために必要なこと—

ことばワークス代表 金子 元一

5. 事務局だより

事務局長代行 田中 努

一粒万倍

1. 次なる CCK へ

理事長 渡邊 健三

2021年5月27日(木)第26回通常総会が、組合会議室にてリモート参加の方も交えて開催され、2020年度事業報告および2021年度事業計画が出席組合員および書面議決書提出の組合員全員の承認を得ました。今年には役員の変更はなく、現在の理事・監事が引き続き担務いたします。

2020年度は2020年2月ころから新型コロナウイルスによる影響が社会・経済に出始め、希望的観測を含め、ウイルスは暑さに弱いから、夏くらいには収束に向かうのではないかと考えていた人が多かったと思います。しかし、実際には、ご承知のとおり21年6月現在、感染状況が改善に向かっていません。日本経済にも大きな打撃を与え、特に雇用への影響は大変大きなものがあります。こうした環境下でありながらも、2020年度は設定した目標に対して一部未達成の部分ではありますが、全体として前年度を上回る結果を残すことができました。その結果、前年度以上の約42万円の当期末繰越利益を計上できる決算となりました。これは、組合員、賛助会員および関係する団体・個人の皆様のご協力・ご支援があって可能となったことと感謝しております。

2021年度は、新型コロナウイルスが及ぼす世界および日本経済・生活様式への影響、変異株による今後の感染状況、オリンピック開催による感染の再拡大のおそれ、コロナワクチン接種による集団免疫獲得、アメリカ・EUと中国の覇権争いと日本の立ち位置など、解決を迫られる課題山積の年になっています。日本は大丈夫なのかと不安に感じます。

日本経済は、どのような青写真を描いて世界経済をリードしていくのか、いけるのか、売れるものがあるのか、心もとなく感じています。一方、労働力不足がますます深刻化します。今はコロナの関係で深刻化している業種としていない業種がありますが、コロナがある程度収まってくると顕著に表れてくるものと思います。

課題山積はビジネスチャンスでもあります。当組合の持つ力を存分に発揮できる環境になってきたとも言えます。私たちの基本理念である、中小企業の経営改善・課題の解決・組織体制の強化等を再認識し、企業から求められるコンサルティングとは何か、をさらに追及し、頼られる存在となるべく以下の方針で取り組むことが確認されました。

- ・指名競争入札制度による官公需受注への取り組み強化
- ・経営コンサルティング事業の深掘り
- ・セミナー・研修事業の充実と拡大
- ・外国人材受入事業強化

以上の柱に加えて、補助金取得支援、業務請負、マイデスク等各事業の受注拡大を図り、トータルとして予算必達を強力に目指していくことが確認されました。また、組合独自の問題として、営業強化のためには財務基盤の強化が不可欠であることも確認されました。

日本は高齢化がますます進んでいます。当組合にも押し寄せています。新入組合員の勧誘には常日頃から心がけて、私たちとともに活動できる方に加入していただき、当組合の事業活性化につなげていきたいと考えます。

また、ついつい忘れがちな災害対策です。日本はもとより世界各地で気候変動の顕著化による超巨大台風・洪水・土砂崩れ・干ばつ・虫害、大きな噴火、地震が多発しています。東京直下型地震も取りざたされています。自らの身は自ら守るが基本ではありますが、帰宅困難に対応して事務所における対策を再点検し、備えておく必要があると考えます。

皆様におかれては健康管理、新型コロナウイルス対策には十分留意していただき、次なる CCK に向けて引き続き一層のご協力をお願いいたします。

今年一年どうぞよろしくお願いいたします。

(特別寄稿第 9 回)

2. コロナ情報

藤田医科大学 名誉教授 船曳 孝彦

入院中でしたので、有力な情報は入っておりませんが、コロナの現況について一言発信しておきます。

前報で危惧していた通り、第 4 波となってきました。あの時点での緊急事態宣言解除がとんでもない失敗です。大阪では爆発的蔓延に（まさにパンデミックに）発展しそうな気配です。東京周辺もおっつけ大阪を追うことになるでしょう。各種の変異型ウイルスが主役となり、強い感染力を持っていますので、蔓延防止策が採られようが、緊急事態宣言が出されようが、関係なく我々自ら最大限の注意しなければなりません。怖ろしいことになりそうです。

「俺は（私は）未症状感染者かもしれない」「友達と言えども感染者かもしれない」と覚悟して行動することです。3密は避け（人込みに加わることは絶対避けてください）、アルコール会食は自粛し、マスク会食（現実には無理でしょうと思っています）などより、外出時には頻繁にマスクを替える方が、より効果的であろうと思います。

遅れに遅れています、ワクチン接種が、医療従事者の大部分をすっ飛ばして、高齢者への接種が始まりました。皆さんにもし順番が来たら、副反応だ、アナフィラキシーショックだのと言ってないで、是非お受け下さい。私の目から見て怖い副反応が頻繁に起きているとは思えません。世界の先進国中最下位に近いワクチン民度の低い日本人に、医学的に判定できない程度の副反応を大袈裟に取り上げているマスコミに踊らされて世の中騒ぎ過ぎです。心配しないでください。ちゃんと安全に接種できたと確認するよう手配されています。私も自分が入院などにならなければ、ボランティアで接種のお手伝いをしようかと思いましたが、消えてしまいました。

山を愛してきた皆さん。それでもこの自粛、自粛の世に押し潰されてしまわないよう、賢く生きてください。ヒトのせいにならず、賢く自分で判断してください。私は山歩き自体には何の危険性もなく、山道となればマスクも不要と思っています。ゴルフ場もそれに準ずるでしょう。キャディさんに迷惑の掛からないようお気遣いしてもらおうのも大切です。きれいな空気を胸いっぱい吸い、精神的にもおらかさを回復したいな、と思っています。しかしこの時期、4人位の少人数で行動しませんと、世間もうるさいですから、人数にはお気を付けください。打ち上げはやはり自粛でしょう。（2021年4月20日 記）

PCR 検査を始めとする検査体制は何回も指摘してきたように、低開発国並みで、未だに十分とは言えませんし、緊急事態宣言、蔓延防止対策におけるモタモタ、Go-To 政策などに対しては今回繰り返しません、最近のワクチンについての情勢については、怒りをもって見えています。政権としては、ことワクチンについてだけでも大きな過ち、無策を繰り返しています。七つの大罪を犯していると考えます。

1. そもそも日本のワクチン開発は順調に進んでいたところを、2018年 SARS, MERS が日本で大流行しなかったことから、不要不急として予算をカットし、停滞させたこと。
2. いよいよ新型コロナのパンデミックが始まり、国内ワクチンの開発が叫ばれ製薬会社は頑張ってみても、十分な予算は当てられなかったこと。国による開発援助政策はやっと検討段階に入ったところ。まだ海外を含めた大規模治験へと進んでいない。
3. それでは海外のワクチン輸入はどうしたか。皆さんご存じのごとく、またこのコロナ情報でも訴えていたごとく、懸命な交渉努力を怠ったために、製薬会社からも馬鹿にされ、首相がアメリカまで行って交渉するなど、買い付けに失敗して大幅に遅れたこと。国内の安全性、有効性に関するデータを得る

ため2か月間遅れたこと。モデルナワクチンやアストラゼネカワクチンでは一転して国内データなしで見切り発車したのに。ワクチン接種が世界百何十位という後進国のレッテルを頂戴してしまった。

4. ワクチン接種が行き渡らないうちにオリンピック開催などは無理であろうというのは当然分かっていたであろうに、少なくとも接種実施について焦眉の急であるこの半年以上全く手を打たず、無策であったこと。1月に心配になりコロナ情報《16》でも指摘したように、接種担当者手配の問題、接種会場での準備手筈、会場確保の問題など何故もっと検討されなかったのか。
5. 接種対象者の順番をどう決めるのか。医療従事者優先、高齢者優先の原則だけでよいわけではない。実際5月下旬の現在でも医療関係者の接種が終わっていない。これも見切り発車で高齢者接種が始まったが、その数の多さを真剣に考えたとは思えない。計画性は全く認められない。
6. マイナンバーとダブっても全国民にコロナ番号を付け、接種予約、接種、2回目接種と、一元化登録しなければ大混乱すると、誰も思うところであろうが、IT技術のお粗末さから、スムーズに行かないでいるところに、防衛省にはこれと関係なくプログラムを組ませたため、全く機能しなくなってしまったこと。接種リスト管理は最大の基本事項であるという認識が欠けていた。
7. 実施方法、予約方法を地方自治体に丸投げしてしまったこと。自治体によりそれぞれ異なり統一されていないうえに、発送予定などもバラバラなため混乱が起きている。まだ何も自治体から通知のない住民がいる。どだい老人にネットで申し込めとは、何を考えているのだろう。と言って電話は繋がらない。繋がっても剣もホロロな対応で、私の身内でも独居で頑張っている二人の80歳超が未だに予約できていない。高齢者なら時間的余裕もあるはずで、一部の自治体では接種日と会場をあらかじめ個人宛にハガキで通知し、支障ある時のみ電話するシステムを採用し、安心が得られたと好評であったという。アナログを使わず、ネット使用を強いるのは、老人虐めか、弱者切り捨てといってもよいような政治である。情けなくなります。

私自身のワクチン接種は、豊島区は各医療機関に直接交渉なため、開業間もない小さいクリニックを狙い、予約を取り、昨日5月19日受けてきました。

すでに第1回は済ませた方もぼちぼち出て来る頃でしょうが、これから第4波が収束に向かうか否か、全く読めません。東京を始め新規患者の増加傾向は鈍化しているようにも見えますし、ワクチン接種者が増えれば乗り切れる可能性もあるとは思いますが。しかしそれにはまだまだ時間を要しますし、変異株の問題もあります。

英国型変異株が従来型にとって代わりつつあると報道されていますが、これは医学的に見れば必然的のことです。感染力が非常に強いので警戒心を強めねばなりません。さらに気を付けねばならないことは、未知の（十分分かっていない、あるいはこの先変異が起こるかもしれない）変異株です。由来国不明の変異種（仮に東京型などと書きましたがカナダ系統らしい）が東京で発見され

ております（山中伸弥新型コロナ情報発信；東京医科歯科大）が、免疫逃避型変異ですからワクチン効果が減弱する可能性があります。

重症化率の高いインド型変異種の流入に対する水際作戦も、もっと真剣に取り組まねばならないと思います。イギリスではイギリス型からインド型へ移行する傾向がみられています。

まださらに新しい変異は出てくるでしょう。問題は国としてこれらの新しい変異のチェックを怠っていることです。

従って、まだまだ十分な警戒を続けなくてはならないでしょう。皆さん呉れもお気を付けください。
(2021年5月20記)

3. 素人が思う感染症対策への疑問

組合員 中野 忠

何故減らない

昨年初め、中国武漢で始まった新型コロナウイルス騒動。当初は外国で起きた他人事のようにわが国には無縁と思っていた。それがイギリスクルーズ船の乗客で起きた集団感染から危機感を感じ始め、2月に入ると国内での感染者が広がり始め、3月にはこの夏に予定されていた東京オリンピックが1年延期されるなど危機感が生じてきた。このことで、初めて経験する事態に、国民の多くは5月の大型連休時に発せられた緊急事態宣言に大いに協力し、連休時の人出は少なく、電車もびっくりするほどすいていた。それで感染者も少し減り、緊急事態宣言も解除されました。しかし、国の対策は疎かで、夏頃から再び感染者が増え始めました。しかし、この当時は今から思うと感染者も1日2、3百人前後で、現在に比べると少なく、そこで政府はこのことによる経済情勢を考慮し、「GO TO TRAVEL」「GO TO EAT」などの対策が講じられました。しかし、暮れあたりから再び感染者が増え、東京都の感染者が1千人を超え、ひどい時には2千人を超えました。この頃、街で歩いている人の殆どがマスクを着用し、それぞれ感染対策をとっていたと思われるのに、何故増え続けるか疑問に感じておりました。また感染者の半数位の人が感染経路がわからない様子でしたが、この人達も直接の原因は不明でも、何らかの形で原因となる接触があったのではないかと思うのです。例えば、私が今感染したら、飲食店に入ったとか、CCK内でのコーヒータイトでの飲食を伴う歓談とか。その辺を何故深く掘り下げなかったと思うのです。お互いこんなに感染症対策をしているのに、何故増え続けるかが非常に疑問に感じているのです。

あきれた感染症対策

今年の大型連休時にも緊急事態宣言が発せられました。昨年と同じように、企業に対してテレワークの実施を求めたりしました。そのための対策として連休中の平日に鉄道会社に対して減便要請をしました。このことを聞いた時、私は啞然としました。昨年の5月頃に比して、乗客は減ってはならず、毎日の混雑は続いていました。それなのに、減便要請したら、益々蜜になるではないかと思いました。そもそも政府が当初から掲げていた感染症対策の基本は「3蜜を避ける」のはずです。それが、蜜を拡大するような対策を講じたのです。この時、私は駅員に対してますます密になると告げたところ、「決まりですから」と馬鹿にされたように無視されました。実際、連休明けの5月6日の朝、私も驚くような満員電車に遭遇しました。このことが、問題となり、予定されていた翌7日は減便をやめ通常ダイヤに戻りました。素人でも疑問に感じる対策にただただあきれざるばかりで、こんな感染対策しか考えない政府の対策に大いに疑問を感じるのです。

何故お酒だけが悪者に？

4月25日から東京都を中心に3度目の緊急事態宣言が発せられました。今までの緊急事態宣言より要件が一層厳しくなりました。大型店舗の営業自粛、イベントの無観客開催にプラスして、お酒提供店への休業要請とお酒そのものの自粛が要請されました。この対策に対して酒好きの私は、非常に憤慨しました。そもそもお酒が癌のように体に悪影響を及ぼすということであれば納得するのですが。今回の感染原因は酒が直接の原因ではなく、酒を介して密になり感染者が出やすいということです。そうであれば酒に関係ない昼食等や喫茶店でも感染のリスクはあるはずですが、従って、そのようにならないような対策をとっての営業を要請するのが、筋ではないのでしょうか。しかも、この宣言がだされた以降感染者が減っていないということは、酒に関係なく感染者が減っていないということではないですか。CCKでは岡崎さんが感染されましたが、岡崎さんはお酒を飲まれない方です。

5月11日迄だった期限が延長された際にイベント等の無観客が解除され、6月からの延長ではデパートや映画館などに対して解除されましたが、お酒に関する扱いは依然解除されませんでした。野球や大相撲等の観客を5千人以内で認めましたが、何故人数制限をしたかということ、密にならない為のはずです。しかしよく見ると一部の場所に限り入れているため、密の状態に入っているではありませんか。このようないい加減な対策を認める政府の考え方に疑問を感じるのです。不要不急の外出を呼びかけながら人出は全く減っていないではありませんか。連休中の高尾山の人出の多さには驚きました。私は毎年大型連休

には自転車でいろいろ回るのを常にしていましたが、昨年今年と我慢してやめました。高尾山に登った人たちは不要不急ではないのですか。渋谷や原宿への人出もそうです。不要不急の外出に対して、単なる呼びかけだけでなく何故こういうことに対する対策を真剣に講じないのか疑問です。これでは、酒の対策に関係なく、6月20日までに感染者は減らないと思います。以上、素人のぼかげた思いを述べてみました。

以上

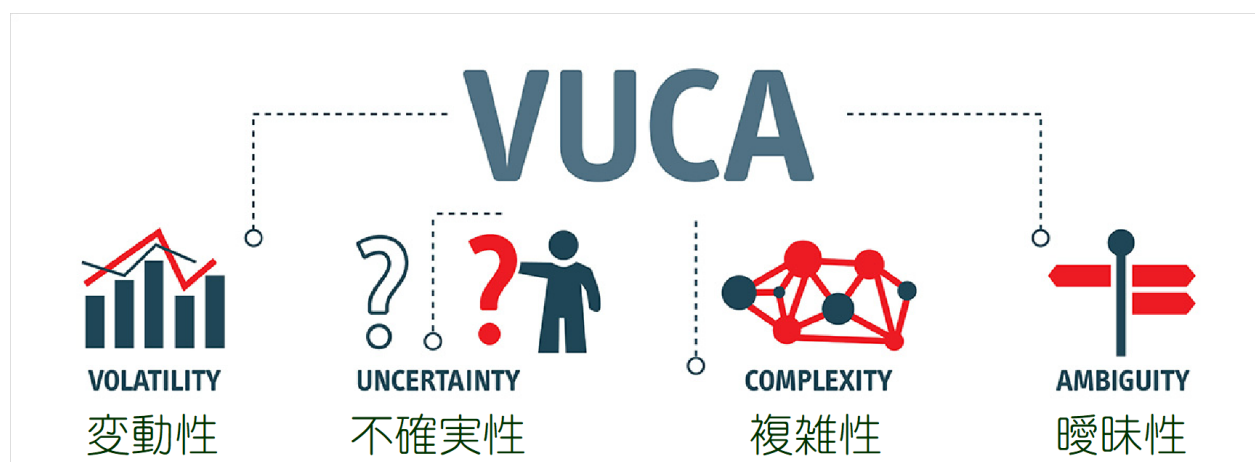
3. VUCA（ブーカ）とは何か。

—VUCA 時代を生き抜くために必要なこと—

ことばワークス代表 金子 元一

昨今は、COVID-19 等の疾病や台風、地震などの災害、更に AI の急激な進化により世の中の変化は極めて予測しにくくなっています。この先どのように変化していくのか、予測が難しい状況が続いています。昨今は、この様な将来を予想しにくい状態を VUCA（ブーカ）という言葉で表されます今回は、VUCA という言葉の意味についての解説と共に、企業が VUCA 時代を生き抜くために必要なことをご紹介します。

VUCA とは



最近、多くの経営者の間で話題の VUCA とは、Volatility（変動性）・Uncertainty（不確実性）・Complexity（複雑性）・Ambiguity（曖昧性）の頭文字を取った造語で、社会やビジネスにとって、未来の予測が難しくなる状況のことを意味しています。

VUCA は、元々アメリカで使われていた軍事用語で、1990 年代にアメリカとロシアの冷戦が終結し、核兵器ありきだった戦略が、更に複雑で不透明な戦略へと様変わりしたことを表している言葉でした。その後、2010 年代に変化が激しい世界情勢を表す言葉としてビジネスの世界でも使われるようになりました。それぞれの意味についてもう少し深堀していきましょう。

変動性 (Volatility)



変動性は、現代におけるテクノロジーの進化や、それに伴う様々な価値観や社会の仕組み、顧客ニーズが変化していくことを指しています。昨今は、極めて短期間でマーケットの状況が変わる事も多くの方が経験済でしょう。このようにめまぐるしい変化の中で、先の見通しを立てることができず、将来の予測が難しくなっていると考えられ、現代社会の大きな不安要素となっています。

不確実性 (Uncertainty)



この言葉は、自然環境や政治・国家、制度などの不確実さを示しています。

地球温暖化に伴う異常気象、生態系の変化また COVID-19 のような未知のウイルスなど、唐突に訪れる問題を予測することは極めて困難です。更に日本では、終身雇用や年功序列などの日本型雇用が既に崩壊しつつありますし、欧米流の成果主義評価が一般的になってきています。これらのさまざまな不確実な事象から、企業や個人でも将来の予測をすることが困難だといわれています。

複雑性 (Complexity)



COMPLEXITY

経済のグローバル化により、ビジネスは益々複雑化しています。日本と海外では、習慣や常識、ルールなどが全く異なります。そのため、日本では成功実績のあるビジネスでも海外では全く通用しなかったり、逆に海外で成功したビジネスが日本国内では通用しなかったりすることもあります。このようにグローバルなビジネス環境では、その国の法律や文化、常識などさまざまな要因が絡み合うことで、ビジネスは驚くほどに複雑化しています。

曖昧性 (Ambiguity)



AMBIGUITY

以上の様な、変動性 (Volatility) ・不確実性 (Uncertainty) ・複雑性

(Complexity) が複雑に組み合わせられることによって、今や世界中で、数多くの前例のない、しかも因果関係すら不明な出来事が増え続けているのです。これらの現象が示すのは、私たちの世界が、過去の実績や成功例に基づいたやり方では通用しない、曖昧性の高い世界へと突入している。という事実には他なりません。

VUCA 時代を生き抜くために

激しい変化が当たり前のようになり、これまでの常識がことごとく覆される VUCA 時代。ビジネスの世界で、私たちはこの狂乱の時代をどのように生きるべきなのでしょうか。

課題の発見と解決力

社会や組織において、未だ見えていない本質的な課題を見つけ出し、問題の解決策をいち早く提案実行する能力が求められます。変化の激しい VUCA 時代では、これまでの成功事例のパターンにとらわれず、ものごとの本質を見抜く力が必要とされます。

自力で生きる能力を身につける

VCCA 時代では、組織にとらわれず、自分で生きていく覚悟と能力こそが必要とされています。これまでの日本社会の常識であった、年功序列・終身雇用・新卒一括採用などの「メンバーシップ型雇用」の思考形態では解決が困難なケースも考えられます。

実例を挙げると、例えばテレワークにあたり、一人ひとりの役割が曖昧で誰がどの作業を自宅で行えば良いのか不明確という課題が出ている様です。そこで、欧米系の企業で採用されている、仕事の範囲を明確することで専門性を高める「ジョブ型雇用」へのシフトも既に始まっている様です。しかしながら、今後日本では、身分と給与が企業によって保証されるとは言い切れません。従って今後は、組織に属していても、他からも求められるオンリーワンの人財を目指す必要があるのです。

VUCA に対応できる企業・組織になるには

更に VUCA 時代には、柔軟に対応できる企業や組織を作る必要があります。VUCA 時代に対応できる企業・組織のあり方をご紹介します。

ビジョンを明確にする

VUCA 時代は、将来を予測することが困難ながらも、確実に変化する環境に適用しなければなりません。例えば企業ビジョンが明確にされていないと、一貫した対応ができず、その都度の一時しのぎ対応になってしまいます。企業でそれぞれの目指すべき成果を企業ビジョンとして設定しましょう。

チャレンジし続ける

社会が急激に変化していくことで、これまでの経験や価値観、常識では通用しなくなってしまうことがあります。今後は、ニューノーマルな生活や常識を取り入れられるよう、新しいことを肯定し積極的にチャレンジする姿勢が必要となります。

情報収集と学習を怠らない

ビジネス環境も急激に変化する可能性があります。そのためには常に情報収集を怠らず、どんな変化が起こっているのかを常に把握しておく必要があります、但しインターネット上の情報は玉石混交。情報ソースを見極める能力も必要です。しかし当然ながら、予測は予測であり絶対ではありません。変化する時代に合わせ、予測も常に変化させていく必要があります。正しい情報から課題解決のアイデアが生まれたら、即実行。間違えていたら即修正していくことが大切です。

VUCA 時代に必要な人財確保

VUCA 時代は、常に想定外の事象が起こります。そのため、想定外のことであっても柔軟に対応でき、迅速に行動に移せる人財が必要です。

新たなリーダーシップ能力を持った人財確保

想定外を想定する能力を的確に評価すると共に、明確な権限委譲が必要です。組織だけではなく個人としても変化に対する適応能力を高め、周囲の適応能力も高められるリーダーシップこそが必要とされます。

迅速で責任のある決断力を持った人財確保

日本企業はこれまで、意思決定や決断に時間がかかっていました。そして業務や成果を組織として全うするため、責任の所在が曖昧になっていました。

しかし、VUCA 時代は意思決定や決断に時間をかけてはいられません。時間が経てば経つほど世の中が変化し、また新たなアイデア・課題の解決策を考えなければいけなくなるためです。組織・個人での責任を明確にして、迅速に決断して行動することにより、VUCA 時代のような想定外の変化にも対応できるでしょう。

終わりに

技術イノベーションが VUCA ワールドを更に複雑化する

前述の様に、VUCA とは未来の予測が難しくなる状況のことを指します。COVID-19 の影響により、これから先の未来の予測が困難な状態です。このような VUCA 時代には、めまぐるしく変化していく世の中に対して、柔軟に対応していく必要があります。

当然ながら、企業は、VUCA 時代に適用できる人財を育成する必要もあるでしょう。

しかし当然ながら将来の予見は困難であり、更に世界中で散発的に発生するであろう、イノベーションによる、多くの技術革新も VUCA 時代の見極めを難しくしています。

もはや楽しむしかない？ 新たな VUCA ワールド！

AI 技術の進歩により、様々なイノベーションの芽も、今まで以上に様々なところに転がっています。それが実際にイノベーションとなり、ビジネスを変革していく大きなうねりとなるかどうかは、極めて不確実ですし、予見は困難です。イノベーションが当初想定したインパクト以上の影響をもたらす可能性もあります。このように、加速化するイノベーションも VUCA ワールドの要因のひとつだと言えます。私たちの目の前に突然の様に現れた新たな VUCA ワールドを、もはや、私たち楽しむしかないのかも知れません。

5. 事務局だより

事務局長代行 田中 努

●6月に入り梅雨の季節になりました。今年は沖縄をはじめとして東海地方まで、観測史上最も早く梅雨入りとなりましたが、その後は梅雨前線が停滞し、今日10日現在、関東地方はまだ梅雨入りしていません。一方台風3号が早くも沖縄地方を通過しました。一方では、昨日は真夏日(30℃超)を超えた猛暑日(35℃超)を記録した地方も出ました。今年はなんともちぐはぐな季節となっており、もしかして「空梅雨」になる可能性は？

*会報の発行が遅れたので14日の関東地方の「梅雨入り」発表が間に合いました。

●組合の26期の通常総会は5月27日(木)に組合の会議室で開催されました。52組合員の内32名が出席・議決権行使・委任状・Zoomなどで参加し、議題も滞りなく可決されました。コロナ禍の基での決算内容は良好で、これも組合員一人ひとりの努力の賜物と思われまます。

●今期、第27期の通常総会は令和4年5月27日(金)の午後3時に決定しました。また1年間の重要会議の日程も決まり、6月の「理事会」で承認される予定です。それぞれの会議には万象繰り合わせて参加をお願いします。また、今年の後半からの「忘年会」正月の「賀詞交歓会」等も開催の方向で検討しています。早く「コロナ禍」から解放されたいものです。

尚、8月の夏休みは11日(水)～15日(日)、年末・正月休みは12月29日(水)～1月5日(水)となります。

●6月の行事等の予定

- 8日(火) 運営会議(10:00)
- 9日(水) 営担会議(10:30)
- 11日(金) BCセミナー(10:00)
- 12日(土) BCセミナー(10:00)
- 14日(月) BCセミナー(10:00)
- 15日(火) 理事会(13:00)
- 18日(金) BCセミナー(10:00)
- 19日(土) BCセミナー(10:00)
- 21日(月) BCセミナー(10:00)
- 23日(水) 営業担当者会議(10:00)
- 25日(金) BCセミナー(10:00)
- 26日(土) BCセミナー(10:00)
- 28日(月) BCセミナー(10:00)

●7月の行事等の予定

- 2日(金) BCセミナー(10:00)
- 3日(土) BCセミナー(10:00)
- 5日(月) BCセミナー(10:00)

9日(金) BCセミナー (10:00)
12日(月) BCセミナー (10:00)
13日(火) 運営会議 (10:00)
14日(水) 営担会議 (10:30)
16日(金) BCセミナー (10:00)
17日(土) BCセミナー (10:00)
20日(火) 理事会 (13:00)
22日(木) BCセミナーB (10:00)
24日(土) BCセミナー (10:00)
26日(月) BCセミナー (10:00)
28日(水) 営業担当者会議 (10:00)
22日(木) BCセミナー (10:00)
24日(土) BCセミナー (10:00)

一粒万倍

▼私事で恐縮ですが、コロナワクチン（ファイザー製）の接種を5月12日と6月2日に2回目を受けました。それから2週間近くが経過し一安心というところですが、30分の経過観察中は何も起こらず、自宅に歩いて帰りました。接種後は肩が多少痛く感ぜられましたが、明くる日から体調がなんとなくすぐれず「だるさ」を感じ、風邪のような症状になりましたが、発熱はせず、軽いコロナに感染したような状態でした。コロナウイルスが体内でうごめいているようです。

▼コロナ禍での2020東京五輪・パラの開催が議論されています。一部の報道では、政府は6月18日に「中止」の決定を発表するとの憶測があります。世間では開催は否定的ですが、政府と東京都は何とか開催したいようです。開催するのであれば、その方針と対策を早く決定して、衆知を図り国民の賛同を受ける必要があると思います。

▼9日、国会では久しぶりに一対一での「党首討論」が行われました。菅首相は相変わらず野党の質問にはのらりくらの答弁に終始しました。質問の内容に答えるのが答弁であり、自分の立場のみを主張するものではないと思われるが、特に2020年東京五輪・パラリンピックに関しては結論が出ないままでした。開会も間近だというのに！

編集後記：*5月は決算で忙しく、原稿の集まりも悪く、休刊となってしまいました。編集子の怠慢と言われても仕方ありません。お詫び申し上げます。*コロナ禍での3月決算は業績が良好との事ですが、今期は色々とお出費が予定され、運転資金も必要となり、短期借入金も考慮の必要がありそうです。これは、組合としてさらに発展する為の一時期と捉えましょう。*原稿が集まりにくい中で、金子さんと中野さんに投稿いただきお礼を申し上げます。